

ロンドン、2018年7月31日

## ブラジルのテルニウム社向けスラブ連続鑄造機の最終凝固工程を新開発の SRD セグメントで改善

- 世界で初めてブラジルのテルニウム社の2ストランド方式スラブ鑄造機のストランド1基に導入
- 個別ローラー制御方式により鑄片の最適化を実現
- SRD (Single-Roll DynaGap) セグメントにより最終凝固点を正確に把握可能
- 優れたスラブ内部品質を実証
- もう1基のストランド用にも SRD セグメントを受注

プライメタルズテクノロジーズ (Primetals Technologies) は、ブラジル・サンタクルスにあるテルニウム社の一貫製鉄所のスラブ鑄造機のストランド用に、新たに開発した SRD (Single-Roll DynaGap) セグメントを納入しました。テストの結果、従来型セグメントを使用しているもう1基のストランドに比べてスラブ内部品質が優れていることが実証されました。この鑄造機の残り1基のストランドにも SRD セグメントが導入される予定です。

連続鑄造機プラントを保有するお客様に対して、鑄造工程で高級鋼種用スラブの内部品質を更に改善するソリューションとして、プライメタルズテクノロジーズは SRD セグメントをお勧めしています。この SRD セグメントは最終凝固領域で使用するために特別に開発されたもので、上段の圧下ロールそれぞれが別々に凝固中の鑄片を圧下することが可能となり、最終凝固点の位置を正確に把握することも可能となります。SRD セグメントは、従来型のセグメントとの併用や置換も可能です。

高い内部品質が要求される鋼種のスラブを確実に生産するためには、最終凝固点に関する正確な知識とそれを実現するソフトリダクションが求められます。当社新開発の SRD セグメントは、正確な最終凝固点制御用に導入され、鋼種、過熱、冷却、鑄造速度に応じて、各ロールと鑄片との隙間を個別に動的に調整することが可能です。各ロールが独立して力を伝えるため、より高い圧下率が実現され、鑄片中心部の偏析と微小空孔が低減されます。

SRD セグメントは、ベアリングやロール表面の損傷を防ぐ過負荷保護機構が各ロールに搭載されるなど、長い運転サイクルや容易なメンテナンスが実現できる設計になっています。各ロールは機能ユニットに、組み込まれており、メンテナンスエリアでの交換だけでなく、生産停止した鑄造機内での素早い交換も可能です。また個々のロールユニットはセグメントへの装着前に検査と調整が可能です。



プライメタルズテクノロジーズによりブラジルのテルニウム社のスラブ連続鑄造機に初導入された SRD セグメント。

他言語（英語・ドイツ語・中国語・ポルトガル語・ロシア語）による（プレスリリース及び資料は、以下の URL よりご覧になれます。 [www.primetals.com/press/](http://www.primetals.com/press/)

#### 報道関係お問い合わせ先:

プライメタルズ テクノロジーズ ジャパン株式会社 社長室（広報担当：山下）  
〒733-8553 広島市西区観音新町四丁目 6-22 三菱重工業（株）広島製作所内  
電話 082-291-2181

プライメタルズ テクノロジーズ 公式ツイッター: [twitter.com/primetals](https://twitter.com/primetals)

**プライメタルズ テクノロジーズ (Primetals Technologies, Limited)**は本社を英国・ロンドンに置き、金属鉄鋼産業における、エンジニアリング及びプラント建設全般の世界的リーダーかつライフサイクル・パートナーです。当社は電機、オートメーション及び環境の総合ソリューションを含めた技術、製品、サービスの一式を提供しており、鉄鋼のあらゆる分野を網羅するだけでなく、非鉄分野でも最新の圧延ソリューションをお届けします。当社は、株式会社日立製作所ならびに株式会社 IHI が資本参加している三菱日立製鉄機械と、シーメンス・グループのシーメンス VAI メタルズテクノロジーズ社の統合により発足した三菱重工のグループ会社です。出資比率は三菱日立製鉄機械が 51%、シーメンスが 49%です。従業員数は全世界で約 7,000 人。詳しくは、下記 URL より当社公式ウェブサイトをご覧ください。

公式ウェブサイト : [www.primetals.com](http://www.primetals.com)